

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名	可茂特別支援学校 学校運営協議会（第2回）		
2 開催日時	令和7年11月13日（木） 10：00～12：00		
3 開催場所	可茂特別支援学校会議室		
4 参加者			
	会長	板倉 寿明	愛知淑徳大学 非常勤講師
	副会長	各務 真弓	NPO法人可児市国際交流協会 事務局長
	委員	福地 達也	ダイオーエコワーク東海株式会社 代表取締役社長
		島田 陽子	障がい者福祉施設ハートピア可児の杜 施設長（欠席）
		石原 京子	美濃加茂市児童発達支援センター・カナリアの家 所長
		天野 利彦	牧野区長
		井口 和広	当校PTA役員
学校側	大竹 陽平	校長	
	村山 朋子	事務部長	
	河原 春恵	教頭	
	飯田 直樹	教頭	
	鈴木 美幸	小学部主事	
	河田 覚	中学部主事	
	三橋 正康	高等部主事（欠席）	
	中島 啓介	教務主任	

5 会議の概要（協議事項）

（1）令和7年度前期の学校運営について

学校：令和7年度前期の学校運営（資料）と学校祭の様子（スライド）

意見1：学校祭では、きめ細かな気配りや目配りに感心した。校長が率先して児童生徒とコミュニケーションをとっているからこそ、職員も倣っている。結果として児童生徒の成長につながっている。児童生徒たちは一生懸命自分のできることに取り組んでいる、という印象である。

意見2：部活動の結果を見て、いろいろな生徒が力を発揮していることが分かる。部活動の頑張りは自信につながる。学校での活動は、将来の生活に大きく影響することがある。

意見3：地域での作品展示は、子どもたちは嬉しい。また、作品がきっかけとなり、小さい頃を知っている保護者同士のつながりを再び作ることもある。

意見4：学校祭の写真を見て、職員の児童生徒を見る瞳がとても愛情深い。

意見5：学校祭について、以前は『にこりん祭』という名称だったが、学校祭に変わったのはなぜか。

⇒高等部の生徒の生活年齢を考慮している。ただし、学校祭、通称にこりん祭という考え方で、愛着をもってにこりん祭と呼ばれる方については、そのまま呼んでもらって構わない。

意見6：当施設でも作品展示をしてもらった。特別支援学校のことを外国にルーツのある家庭に正しく伝えていくことの大切さを感じている。

意見7：外国にルーツのある子どもたちに向けた性教育のプログラムを計画している。生理のことや自分の体を守ることをどう教えてるか。宿泊学習等と関わらせてやっていることがあれば教えてほしい。

⇒宿泊学習の事前学習では、お風呂の入り方や体の洗い方を学習する。身だしなみや人との距離の取り方等については生活の中で指導している。土岐市にある東濃特別支援学校では、性教育のプログラムを冊子にまとめていると聞いた。日常の取組で全般的に性教育を意識することが大切である。

意見8：学校祭でごちやまぜアートを実施した。PTAより紹介したが、卒業後のことを考え、少しでもつながる団体として知つてもらえたという思いからである。東濃実業高校の生徒にボランティアに来てもらった。当校のことを知つてもらうよい機会だった。地域の高校生たちとの交流はぜひ積極的に行っていくべきである。

⇒高校生との交流は、校長会や教頭会でもぜひに、と発信している。今年度、加茂高校の生徒が見学に来た。加茂農林高校とも毎年共同学習を実施している。今後、交流がより活発になることを願っている。

(2) 学校評価アンケートについて

学校：令和7年度学校評価アンケートの分析結果と課題（資料）

意見1：どんなアンケートも、100%はない。全体的に良い評価であることは明らかなので、自信にしてほしい。そして、より良くするために何ができるかをしっかりと分析し、来年度につなげてほしい。

意見2：「懇談の実施」や「保護者との連絡・意思疎通」の項目の評価が高く、学校の思いが保護者に伝わっている。

意見3：防犯カメラの設置について保護者からの要望が出ているが、どうするか。

⇒外部からの侵入を想定したカメラについては、すでに多く設置済みである。校舎内を映すものについては、プライバシーの観点から難しい。

意見4：アンケートは、良い評価をもらうことだけが全てではない。学校をどう変えていくかを考える材料にしてほしい。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、前期の学校運営、学校評価アンケートの分析結果と課題について全委員の理解を得られた。
- ・部活動や学校祭での児童生徒の活躍について、日頃の指導や児童生徒への関わり方が評価された。他校等との交流や外国にルーツのある家庭への啓発については、地域の学校や関係機関と連携して前向きに取り組んでいく。
- ・学校評価アンケートは全体的に高評価であったが、今後、さらに学校を良くしていくために、保護者や生徒に是非を問いたいことや学校としてアピールしたいことをアンケート項目に入れ、その評価を検討材料にしていく。